

□開催概要

名 称	ワールド・コラボ・フェスタ 2008
会 場	オアシス 21「銀河の広場」、久屋大通公園「もちの木広場」
日 時	平成 20 年 10 月 25 日(土)10 時～20 時／26 日(日) 10 時～18 時 (「もちの木広場」は両日とも 10 時～16 時)
入場料	無料
テーマ	発見！体験！世界大交流 ～地域のことから地球のことまで～
主 催	ワールド・コラボ・フェスタ 2008 実行委員会 構成団体：財団法人愛知県国際交流協会（AIA） 財団法人名古屋国際センター（NIC） 独立行政法人国際協力機構中部国際センター（JICA 中部） 特定非営利活動法人 名古屋 NGO センター（NANAGOC） なごや国際交流団体協議会（NIA）
助 成	財団法人東海テレビ国際基金、財団法人三菱 UFJ 国際財団、
後 援	国際連合地域開発センター、外務省、文部科学省、愛知県、名古屋市、愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、国際交流基金、(財)日本国際協力センター、(財)自治体国際化協会(CLAIR)、(財)地球産業文化研究所(GISPRI)、中日新聞社
協 賛	愛知学院大学、愛知県共済生活協同組合、愛知工業大学、アウトバツク・ステーキハウス名古屋栄店、(株)アマノ、イオンリテール(株)、ウニツール(株)、桜花学園大学、(株)オークローンマーケティング、(有)グレー、グローバルパートナーズ(株)、言語交流研究所ヒップファミリークラブ、コスモトラベル、(カネニ総業(株))、近藤産興(株)、栄地下センター(株)、JAL 日本航空、JT、(株)セントラルパーク、全日空ホテルズホテルグランコート名古屋、ダイコク電機(株)、中京大学、中部大学、東和不動産(株)、徳倉建設(株)、豊田通商(株)、(株)トータルサービスシステムズ、(株)名古屋銀行、(株)名古屋交通開発機構、名古屋地下鉄振興(株)、(株)二友組、ハードロックカフェ名古屋、パナソニック電工(株)、中部特機営業部、ヒルトン名古屋、ベンリッツ・ジャパン(株)、(特活)ホープ・インターナショナル開発機構、ミナミ産業(株)、名港海運(株)、明治電機工業(株)、ヤマモリ(株)、(株)両口屋是清、リゾートトラスト(株)、(株)ワーロン（以上、五十音順）
参加団体	政府機関、国際機関、地方自治体、企業、国際交流・国際協力団体

ワールド・コラボ・フェスタ 2008WEB サイトより抜粋

[http:// www.world-collabo.jp](http://www.world-collabo.jp)

□出展計画

名 称	文部科学省（「国際協カイニシアティブ」）
日 時	平成 20 年 10 月 25 日（土） 10 時～20 時／26 日（日）10 時～18 時
出展場所	銀河の広場 A③
目 的	一般の方々への事業の広報 (1) 国際協カイニシアティブの取組 (2) 青年海外協力隊・日系社会青年ボランティア「現職教員特別参加制度」 他
内 容	(1) 大学や NGO 等、わが国の教育関係者が有する知見を基に作成した国際協力活動の現場で活用するマニュアルや教材などを展示する (2) 現職の教員を青年海外協力隊員として開発途上国に派遣する活動を紹介する写真やパネルを展示、帰国隊員による説明、平成 20 年度より現職派遣の適用を受け、募集を開始した日系社会青年ボランティア「現職教員特別参加制度」の紹介
ご協力頂いた先生方	【現職教育特別参加制度の説明者】 25 日（土）／因幡智寿子教諭 （愛知県名古屋市立御幸山中学校 H18 派遣：バヌアツ・体育） 26 日（日）／池山清二教諭 （愛知県一宮市立南部中学校 H18 派遣：ベナン・理数科）

□会場風景



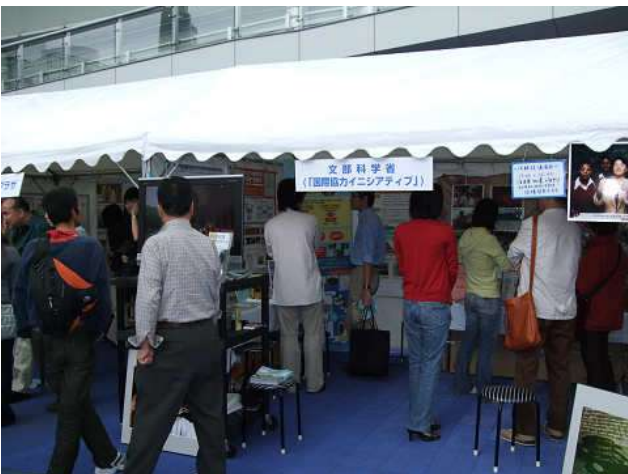
10/25 (土)、ワールド・コロボ・フェスタ 2008 が開幕した。あいにくの天気となったが、会場は家族連れやお年寄りなどで賑わった。ステージでは地元グループによる各国のダンスや歌が繰り広げられ、立ち見が出るほどの盛況ぶりだった。(写真(左)(中央)オアシス21会場、(右)もちの木広場会場)



【テント内レイアウト】

地元である名古屋大学（農学国際教育協力研究センター）・愛知教育大学様の取組について新たにパネルを作成し、紹介した。また、「国際協カイニシアティブ」事業実施者である、名古屋大学松本哲男先生、浅沼修一先生、名古屋学院大学中野貴博先生は、当日会場を訪れて、展示の様子を確認されていた。





【10/25(土) 青年海外協力隊帰国現職教員
H18 バヌアツ：因幡智寿子先生】
たくさんの民芸品や写真に囲まれ、テント内はバヌアツモードとなった。因幡先生からは、現地での指導内容の他にも、人々の普段の暮らしぶりや食生活のこと、島の気候等についても話があった。

ベナンの中高生の間では、カンファーが大流行。遠いアフリカの子供たちのスライドを興味深げに見入る中学生。



【10/26(日) 青年海外協力隊帰国現職教員
H18 ベナン：池山清二先生】
教育の質の向上のために、現地の教員の意識改革に取り組んだという池山先生。なかなか受け入れてもらえない状況の中でも粘り強く対話を重ね、研修等を開催しながら、少しずつ理解を促していったとの話があった。

「世界大交流」のテーマの下、会場には様々な国の方も訪れ、文部科学省のテントでも日本での仕事や勉強、名古屋での暮らし、遠く離れて暮らす家族の話に場が和む一コマもあった。

